



想い | つくる | 伝える



日本の産業技術を先導してきた相川金銀山のコンビナート跡。今年の2月、国の史跡として指定され、7月中旬から一般に公開される。

Take Free

ご自由にお持ちください

相川金銀山の面影 [佐渡市]

文・写真 / 榎本国男



- 四十物町の四十物とは、保存用塩魚などのこと
- 大工町の大工とは、坑道内で鉱石を採取する人のこと
- 床屋は鉱石の製鍊作業所
- 柄杓町、茶屋町は遊郭として栄えた記録があります
- 夕白町の町名は山師備前嘉兵衛(2代目"遊伯")の名によるものです
- 鍛冶町は金掘大工が使う鑄を作れる職人の町。相川金山の鉱脈は岩盤が固く、2日に1本の割合で鑄を消費したといわれます

また5万人の民が暮らす鉱山都市には、医者が多くいたという記録があり、多くの薬草が栽培されていました。

相川では京町「町並み保存センター」の小林祐玄さんが豊富な知識で案内してくれました。小林さんは地元諏訪町の万照寺の16代住職を務めるかたわら地域の町並み保存の活動を続けておられます。往時は92の町名を記した町並みの一部は廃絶・廃墟となり、それぞれの町名が町角に置かれた朱泥の標識にみられるだけとなっています。

午後になると太陽は傾き相川金銀山のすべての遺跡を薄い曇り空が覆いました。金銀山に命をかけた5万の民は鬱蒼とした山並みの陰でどんな夢を紡いでいるのでしょうか。慶長9年(1604年)の晩春の空も薄曇りで、風もいまと変わらぬ風だったことでしょう。

佐渡金銀山には世界遺産登録の夢があります。朱鷺の群れ飛ぶ姿も間もなくみられるに違いありません。



およそ400年前の慶長8年(1603年)、金銀山開発に功労のあった大久保長安は、徳川家康より相川金銀山の支配を命ぜられると、当時、鶴子銀山に置かれていた代官所を相川に移転することを決めました。そして翌年佐渡に渡るや具体的な町づくりに取り組むとともに、新しい採掘技術を導入し金山は空前の発展を遂げます。佐渡へ渡れば『カネがとれる』の風評は全国に知れわり、全国各地から人が集まり、とりわけ今の北陸3県や関西から多くの人がやってきました。ゴールドラッシュで相川は急激に人口が増え、長安の町づくりは拡大に次ぐ拡大を続けてきました。

相川町の広さは4km四方、そのうち人が住める土地はせいぜい2km四方しかないといわれ、この狭い地域に最盛期には5万人が住んだといいます。わが国屈指の鉱山都市、行政都市の誕生でした。当時の町の形成は奉行所に並行して家々が建ち並び、土地が狭いためどれも2階建て、段丘の傾斜地にも人が住み、一時期には川の上にも大木を渡し人が住んだと伝えられています。

人が集まると様々な町名が出来はじめます。古文書では92の町名が存在した記録があります。それらの町名の主なものを書き上げると

- 人名に由来する／勘四郎町 新五郎町 庄右衛門町 清右衛門町 嘉左衛門町 夕白町
- 地名に由来する／会津町 諏訪町 奈良町 京町 大坂町
- 商売に由来する／米屋町 塩屋町 味噌屋町 八百屋町 四十物町 炭屋町 紙屋町 板町 材木町
- 職業に由来する／大工町 床屋町 鍛冶町 柄杓町 茶屋町

商店名には、郷里名や個人名を残したもの、販売品を店名にしたものなどがありました。また職業については佐渡金山特有の名称で呼んでいたようです。

発行所



まごろ印刷の
株式会社 タカヨシ

PRINT COMMUNICATION 企画・制作・印刷・シール・パッケージ・出版etc

- 本社・工場／〒950-0141 新潟県新潟市江南区亀田工業団地1丁目3-21 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 381-4800
- 東京支社／〒110-0005 東京都台東区上野1丁目13-3 MYビル2F TEL (03) 3837-4488 FAX (03) 3837-4884
- 仙台営業所／〒981-0901 宮城県仙台市青葉区北根黒松8-12 威和マンション黒松103号 TEL (022) 728-0506 FAX (022) 728-0510
- オフィシャルサイト／<http://www.takayoshi.co.jp> ■商品サイト／<http://www.tk-print.jp>

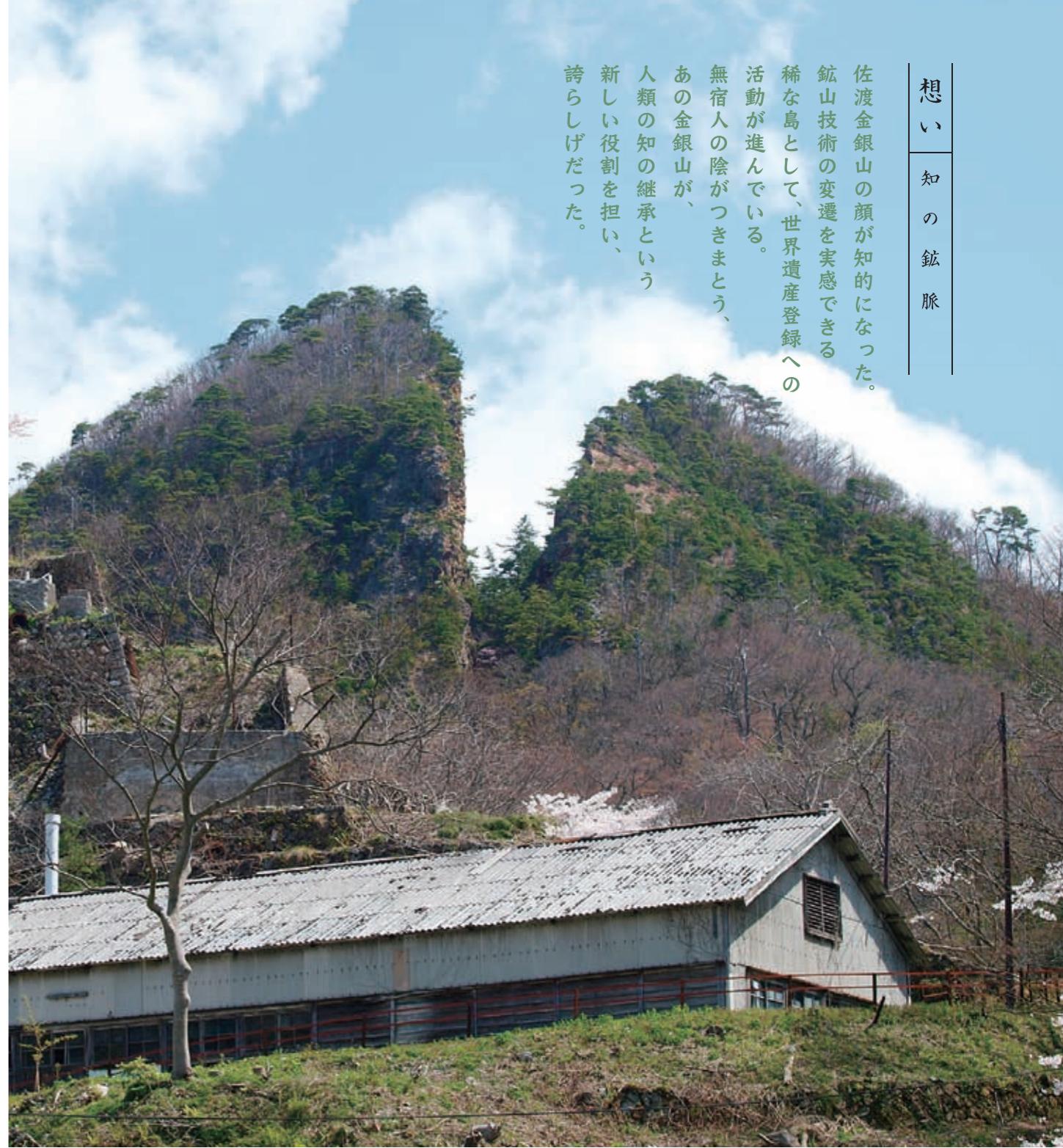
「ふうど」はここに置いてあります。

[新潟市] 上古町商店街(中央区)、砂丘館(中央区)、佐渡汽船ターミナル(中央区)、朱糸メッセ(中央区)、新潟NPO協会(中央区)、新潟絵屋(中央区)、新潟県政記念館(中央区)、新潟県立図書館(中央区)、新潟市民活動支援センター(中央区)、新潟市生涯学習センター図書館(中央区)、新潟市商工会議所(中央区)、新潟市中央公民館(中央区)、新潟市中央図書館(中央区)、新潟ユニゾンプラザ(中央区)、新潟市歴史博物館(中央区)、古町サテライト(中央区)、新潟大学図書館(西区)、新潟ふるさと村(西区)、新潟せんべい王国(北区)、亀田図書館(江南区)
[長岡市] 長岡市立中央図書館
[東京都] 表参道・新潟館 ネスバス(渋谷区)、日本橋・にいがた館NICOプラザ(中央区)

この印刷物は環境にやさしい米ぬか油のUVライティングで印刷しています。



佐渡金銀山の顔が知的になつた。鉱山技術の変遷を実感できる稀な島として、世界遺産登録への活動が進んでいる。無宿人の陰がつきまとう、あの金銀山が、人類の知の継承という新しい役割を担い、誇らしげだった。



相川金銀山最大の露頭掘りの採掘跡「道遊の割戸」(国指定史跡:佐渡市下相川)

シーボルトの慧眼

■近づいてきた「道遊の割戸」

緑に覆われた山が、ふたつにパックリ割れている。道遊の割戸。相川金銀山の開発は、慶長六年（一六〇一年）、この「道遊脈」の発見から始まる。金鉱脈は地表に近いほど掘りやすく、またたく間に山頂から山中

へと掘り進められ、小さな山は世にも奇怪な姿に変わった。山の上部は、江戸期の手掘りによる採掘跡。その足元は明治以降、西洋技術による大規模な採掘が行われ、巨大な穴が空いている。深さ約七十四メートル、幅は最大で三十メートルにおよぶ。時代ごとに変わる採掘法や規模の違いを、ゴールデン

佐渡で間近に見ることができる。

数年前までは割戸を遠目から眺めるだけだったが、絶好のビュースポットが整備されていた。青空に



ドイツ・フライベルグ博物館の入口サイン(新潟県文化行政課世界遺産登録推進室提供)

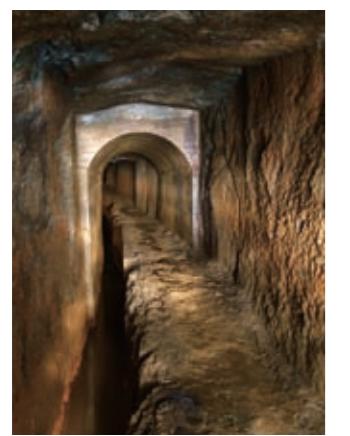
の手前に、石垣の丘が幾重にも連なり、その上には二十二年前まで操業していた工場や事務所が、人のざわめきを内包したまま建っていた。佐渡金銀山ではじめて見る、温かい風景が広がっていた。

この絵巻によつて『佐渡島』と『佐渡の金銀』について詳しく知ることになる。現在、イギリス国立図書館、ド

■海を渡つた佐渡鉱山絵巻

江戸時代の金山経営は、どのように行われたのか。全国に百本ほど残されている佐渡鉱山の絵巻が、ほぼその全容を伝えてくれる。採掘から金の製錬工程、幕府役人・請負人・労働者の仕事風景が細かく書き分けられ、当時の鉱山技術と生産システムを知る貴重な資料である。相川の町を歩く金山労働者や、赤ちゃんに乳をふくませながら選鉱作業に勤しむ女性の姿なども描かれ、情報の質の高さとその数の多さで他の地域の鉱山資料を圧倒している。鉱山都市の暮らしを知る手がかりとしても、国内外の研究者の評価は高い。

この絵巻が長崎出島のオランダ商館付医師であり、日本の文物を収集したシーボルトや明治期に欧米から招聘された技術者を通じて海を渡つた。マルコポーロが東方見聞録で黄金の国ジパングを紹介してから、およそ五百年後、ヨーロッパ人ははじめて絵巻によつて『佐渡島』と『佐渡の金銀』について詳しく知ることにな



17世紀後半、約5年近くの幾月をかけて掘削された排水坑・南沢疊水道の内部。現在、保全のために公開されていない(国指定史跡)



江戸時代に描かれた佐渡鉱山絵巻より石臼とねこ流しで金を選鉱する場面



12.5kgの金塊(ゴールデン佐渡所蔵)



金の延べ板から小判をつくる場面



日本を支えた 四百年鉱山

江戸の知的ストック

戦国末期に発見され平成元年（一九八九年）に休山するまでの約四百年間。佐渡金銀山は、日本最大量の金を産出し、それぞれに時の政権を財政的に支える重要な鉱山だった。幕府が管理した江戸期、官営から皇室財産になった明治期、そして民間に払い下げられてから三三菱時代。道遊の割戸がある高任地区から、浜手の北沢地区と港がある大間地区までの一帯は、かつて佐渡鉱山のコンビナートがあった場所。国内や東洋に誇る近代的な設備が威容を誇っていた。幸いなことに鉱山が休山しても主な設備や遺構が残る。

三菱マテリアルの傘下にあるゴールデン佐渡の相談役・永松武彦さんは、地質探査を専門としてきた

江戸時代初頭から平成元年までの鉱山技術と操業システムに関する優れた技術を駆使していったことがわかります。

たとえば坑道に溜まつた地下水を排水するための南沢疏水道が、十七世紀後半につくられます。工期を短縮するために六方向から同時に掘削を進め、九二二メートルの坑道が貫通した時、その誤差はわずか五十センチメートルでした。これは凄いことで、当時の測量技術の高さが窺えます」と知つ

てるようで知らなかつた佐渡金山の側面を教えてくれた。続いて明治になると「岩倉使節団に随

エンジニアの立場から産業遺跡の価値について「私どもの鉱山には、江戸時代初頭から平成元年までの鉱山技術と操業システムに関する優れた技術を駆使していったことがわかります。たとえば坑道に溜まつた地下水を排水するための南沢疏水道が、十七世紀後半につくられます。工期を短縮するために六方向から同時に掘削を進め、九二二メートルの坑道が貫通した時、その誤差はわずか五十センチメートルでした。これは凄いことで、当時の測量技術の高さが窺えます」と知つてるようで知らなかつた佐渡金山の側面を教えてくれた。続いて明治になると「岩倉使節団に随

行した大島高任が初代の佐渡鉱山事務長になり、鉱山技術の近代化と施設の拡張が進められます。坑道掘りより効率のいい堅坑の新設、大間港の整備、選鉱場や製錬所の拡張など矢継ぎばやに近代化が進み、日本の鉱業界をリードする鉱山へと飛躍していきますね。その後、ドイツの鉱山学校で学んだ渡辺渡が

鉱山局長代理になり、大規模な架空索道を新設し製錬部門の事業を拡張していきます。同時に日本で初めて鉱山学校を設立し、後継者の育成にも力を入れています。

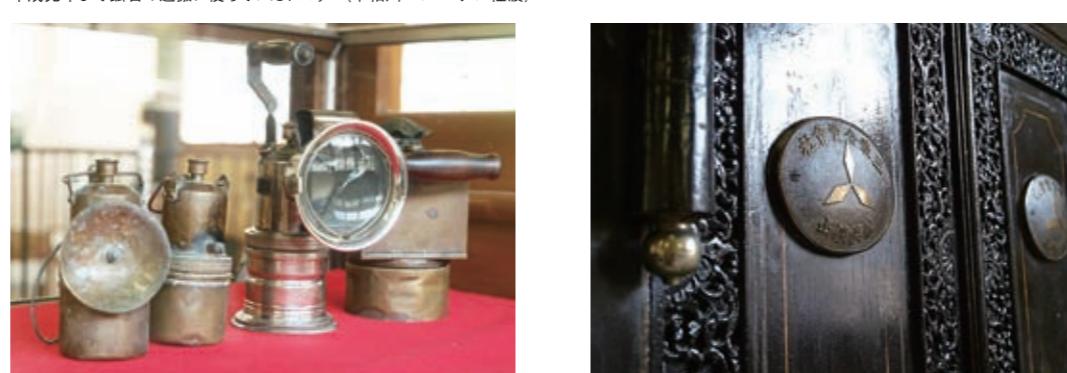
こうした近代化が短期間に実現した背景には、江戸の長い期間に蓄積してきた技術の継承があり、組織的に機能する産業構造が相川にあつたからでしょうね。多い時には数千人の人が組織的に動いていた訳ですから。江戸時代の相川の町は、世界でも類のない鉱山都市で、大勢の人や情報で賑わい、知的水準も高かったのでしょう。一見ガラクタのような工場跡や機械類でも、江戸から現代につながってきている知識の系譜を記憶する装置として、また人々の生業があつた証拠として未来に伝える価値があります」永松さんの想いを表すように、ゴールデ



鉱石や資材の運搬のために明治期に整備された大間港(相川大間町)



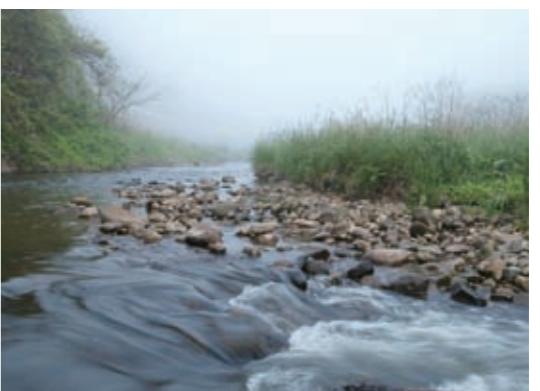
明治期に開削された運搬用の坑道。この先に「道遊の割戸」の採掘場がある(下相川・ゴールデン佐渡)



佐渡金銀山の近代産業遺跡の価値について語る永松武彦さん



山里の砂金山



今でも僅かに砂金が採れる西三川川



白壁と黒の腰板で統一された江戸後期の民家(西三川 笹川地区)

西三川砂金山の最大の稼ぎ場だった虎丸山
(西三川 笹川地区)

盛山さんが手塙にかけた「笹川のコシヒカリ」のおにぎり

このころの砂金採取は、砂金の含まれる地層を掘り崩し、その土砂を一ヵ所に集め、堤に溜めていた水をいっきに流し水の勢いで砂金と土砂を選別するというダイナミックな方法だった。そのため人工的に水路や堤が作られた。現在も真野地に金山役所が置かれた。

(約二一九キログラム)を上納したことから笹川集落は「笹川十八枚村」と呼ばれ、大変な賑わいを見せたとい。江戸期になると佐渡奉行所が砂金山を経営するようになり、笹川に金山役所が置かれた。

このころの砂金採取は、砂金の含まれる地層を掘り崩し、その土砂を一ヵ所に集め、堤に溜めていた水をいっきに流し水の勢いで砂金と土砂を選別するというダイナミックな方法だった。そのため人工的に水路や堤が作られた。現在も真野地に金山役所が置かれた。

■ 時を忘れる天空の棚田

笹川集落の往時の繁栄を物語るものに、西三川小学校笹川分校もある。この春まで小学生が通つていた島内最後の分校である。虎丸

区の小川内川上流から、笹川地区まで十二キロメートルにおよぶ水路の跡と、集落の所どころに石積みした堰の跡が残っているが、深い夏草に覆われて素人目には、ちょっとわかりづらい。

株式会社ゴールデン佐渡
新潟県佐渡市下相川1305 TEL 0259-74-2389 FAX 0259-74-3235 http://www.sado-kinzan.com
相川郷土博物館
新潟県佐渡市相川坂下町20番地 TEL 0259-74-4312 FAX 0259-74-2556
【佐渡ヶ島へのアクセス】 佐渡汽船・カーフェリーにて ●新潟港→両津港 約2時間30分 ●直江津港→小木港 約2時間40分 佐渡汽船・高速船にて ●寺泊港→赤泊港 約1時間5分 佐渡汽船・ジェットフォイルにて ●新潟港→両津港 約1時間5分

【協力】

新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室
TEL 025-280-5726
佐渡市世界遺産推進課
TEL 0259-63-5136

【編集後記】

佐渡金銀山遺跡の今を追ってみました。世界遺産登録に取り組む関係者の努力と住民の郷土愛によって、遺跡群がとても輝いて見えました。取材の帰り道、真野地区にある佐渡もっとも精緻な寺社彫刻だと地元の人が言う智光坊に寄ってみました。その言葉どおり素晴らしい建物でした。たまたま霧の深い日で、思わず幽玄の時を過ごしました。やはり佐渡は大きく深いです。おなじ県民として、もっと世界に誇りたいと強く感じます。なお、この6月14日に佐渡金銀山遺跡が世界文化遺産への前提となる国内の候補リストに単独で記載されることが決定し、世界遺産への夢が大きく前進したことを、ここにお知らせします。<渋川綾子>

ふうど 2010夏号 vol.9
企画編集 株式会社タカヨシ広報室
発行人 高橋春義
取材 榎本国男
写真 渡部佳則
デザイン 斎藤道司
題字 小林翠
発行所 株式会社タカヨシ

けた日は、もう
山に迷られて
いた。「安心安全にこ

大山祇神社の狛犬と能舞台(西三川 笹川地区)

■ ダイナミックな砂金採取法
上杉景勝が佐渡を平定
した戦国時代。毎月金
十八枚



専業農家の盛山さんとアシスタントの伊藤さん



白壁と黒の腰板で統一された江戸後期の民家(西三川 笹川地区)

平安時代に編纂された「今昔物語」に佐渡国で金を掘ったという説話があり、この砂金採取の舞台が西三川流域だったといわれている。砂金山の本格的な開発は、山伏や、十五世紀中期に尾張国から来島した浄土真宗門徒たちが深くかかわったとされ、今も多くの家があり阿弥陀堂などその信仰の痕跡が残っている。

三川砂金山の笹川集落は全国でも珍しいケースだという。真野湾から西三川川上流に、約四キロメートル。車一台がやっと通り得る狭い道の先に、笹川集落がある。途中の鬱蒼とした樹陰とは全く違う明るく裕福そうな集落が街道に沿って伸びている。能舞台のある古寂びた山、新穂銀山、西三川砂金山の四ヵ所の鉱山跡を総称し、遺跡の整備とともに学術的な調査研究で、その価値が再発掘されている。なかでも歴史が古く、閉山しても人々の暮らす西三川砂金山の笹川集落は全国でも珍しいケースだという。

三川砂金山の笹川集落は全国でも珍しいケースだという。真野湾から西三川川上流に、約四キロメートル。車一台がやっと通り得る狭い道の先に、笹川集落がある。途中の鬱蒼とした樹陰とは全く違う明るく裕福そうな集落が街道に沿って伸びている。能舞台のある古寂びた山社や江戸時代に建てられた茅葺きの民家が、いっさくに異界へと誘う。集落の外れから砂金掘りのために山肌を削られ、赤土を晒したままの虎丸山が見え、ありし日の面影を伝えている。

平安時代に編纂された「今昔物語」に佐渡国で金を掘ったという説話があり、この砂金採取の舞台が西三川流域だったといわれている。砂金山の本格的な開発は、山伏や、十五世紀中期に尾張国から来島した浄土真宗門徒たちが深くかかわったとされ、今も多くの家があり阿弥陀堂などその信仰の痕跡が残っている。

山を臨む山懐に抱かれてこじんまりとした校舎が建ち、小さな体育馆に子どもたちの絵が飾つてあった。分校が閉校しても集落の絆は強く、笹川区民運動会や納涼会、敬老会、釣り大会などの行事が多い。強く、笹川区民運動会や納涼会、敬老会、釣り大会などの行事が多い。

この春、西三川砂金山の現地説明会が行われた時、集落の人たちが三十人あまりの参加者に昼食をふるまってくれ、干し椎茸のお土産まで用意してくれていた。その時の塩おにぎりが美味しかったこと。山の雪融け水だけで育てた米は、冷めても美味しい。それは、水の良い香りがするからだと生産者の盛山保さんが説明していた。後日、盛山さんの田んぼに案内してもらいう。集落の道筋から見ることができる山の上に、段丘状の田んぼが広がっている。さらに山の奥へ。蛇行する道を登り、ようやく自慢の田んぼに到着。傾きか

けた日は、もう山に迷っていた。「安心安全にこだわり、土づくりなどいろいろ工夫して作った米ですから、消費者の人にまじりつけなしで食べてもいいたい」と盛山さん。田んぼの脇には、ちょろちょろ湧き水が流れている。

西三川砂金山は相川金銀山とは、まったく別の顔がある。産業遺跡と源郷のような山里。その風景のなかにいるだけで休まる。この自然に抱かれた暮らしも世界遺産としての価値があるのかもしれない。